

令和5年度 全国・学力学習状況調査結果の分析【第3学年】

北区立堀船中学校

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
全体的に東京都、全国の平均点より下回る結果となり、特に「文脈に即した漢字変換」や「具体と抽象などの関係性の理解」、「文章の構成や展開、表現について根拠を明確に指摘できる」などの問題が非常に苦手であるということが分かった。項目としては、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」「読むこと」「思考・判断・表現」の強化が必要である。一方で、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題は正答率が100%であり、三年間を通して着実に力を積み上げてきている。	漢字をそれ単独でおぼえるのではなく、文脈の中で捉え、意味を考えながら書き換えられるよう指導していく。また「読むこと」の指導において、抽象的な内容と具体的な内容がどのように対応しているかを考えながら読ませることに取り組む。「書くこと」の指導においては、ただ書くだけでなく、書かれたものをどのように変えれば、良い文章、伝わりやすい文章になるのか、批評したり、指摘させたりする学習活動に取り組んでいく。	学習した漢字を使用して文章を作る学習活動に取り組み、文脈の中で漢字が使えるよう指導していく。また、「読むこと」の学習では、抽象と具体を捉えさせ、その関係性を使って自分で文章を書かせるなどして、理解を深めていく。「書くこと」の学習では、級友の書いた文章を読み合い、改善点を指摘する学習活動に取り組む。それを通して自分の文章を捉えさせ、構成や展開、表現に注意しながら文章をまとめられる力を養う。

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
全国公立平均正答率に対して領域別では図形が-1.5%、データの活用が-11.5%と特にデータの活用について課題がある。また、思考・判断・表現では-4.5%と低く、この領域の正答率の偏りに要因があり、関数や数式においても全国の平均正答率を大きく上回る状況となっていない。出題の趣旨である証明・説明する問題が-6.7%、-4.7%と低く、四分位範囲・累積度数の意味といった知識の部分でも有意に差が開いている。関数や、数と式において、平均以上の到達していることはこれまでの取組の成果と考えられる。	知識を要する領域に課題があることを踏まえ、数学的意味の活用の場面をとおして、知識の獲得・定着するプロセスを重視する。技能の活用場面をとおして、思考・判断を養うための教材に取り組んでいく。また、証明の学習では論理的な構造を、ICTを活用しながら視覚的に捉えさせていく。また、説明する時間を設け、発言する機会を増やすことで、数学的な用語を用いて考えをまとめることができるようにしていく。	身近なものを教材に扱っていく。生徒自身が用意できるデータを活用して、データを分析するだけでなく、根拠をもって数学的に説明する学習活動に取り組む。思考・判断・表現の問題では、どのように解き進めるか、フローチャートを作成したり、手順を明らかにしたりしながら、考える流れを明確にしていく。グループ学習でフローを決定する流れを作り、発表することなどとおして、様々な解法の流れを共有し、解法に関する視野を広げていく。

英語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
日常的な話題について、短い文章で概要をとらえる問題は、全国平均とほぼ同等であるが、東京の平均を下回る状況にある。また、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文で表現する問題では、東京都や全国の平均を下回っている。リスニングの領域においては、東京都や全国の平均を大きく上回っている。また、話すことの結果は、東京都や全国平均を大きく上回っている。	日常の授業の中で、会話による表現や、質問に対して正確に答えるための練習に取り組む、英会話に関する興味をもつことができるようにしていくとともに、学習の定着につなげていく。また、教科書の教材文の読解をとおして、単語や文法を正確に捉え、自身の表現に活用することで、英語力の向上を図る。様々な分野の教材文を学習することで、英語圏の文化や歴史、人とのつながりに興味をもって意欲的に学習できるようにしていく。	毎回の授業でQuestions & Answerに取り組み、ペア活動を取り入れて、英語で会話する時間を1分間以上設ける。ペアが答えた英語表現から質問文を考え、質問に対してどのように対応するか、英語で考える練習に取り組む。また、一定量の英文を読み、意味を考え、問いに答える練習に継続的に取り組む。教科書の新出単語を活用し、自己の表現に生かす英作文に取り組む。授業の始めにtopicを示し、3行程度で作文する練習に取り組む。